

現代日本学深耕 - 2

実証綜合理論科学的日本学と

実効実践科学的日本学の統合

—— 神坐す常若の杜の神都伊勢と

神宿る玄海の孤島神郡宗像沖ノ島 ——

宮 川 泰 夫

## 現代日本学深耕－2

# 実証綜合理論科学的日本学と 実効実践科学的日本学の統合

—— 神坐す常若の杜の神都伊勢と  
神宿る玄海の孤島神郡宗像沖ノ島 ——

宮 川 泰 夫

### □ 抄 録

皇學館大學は創立130周年、再興50周年を記念し、2012年に「神宮と日本文化」を出版して神宮を基幹として育まれた日本文化を論究し皇学を拓いてきた。

2010年発足の現代日本社会学部は、実証的日本文明の綜合理論科学の道を、文学部の研究史より学び、その実効的実践科学としての開かれた道を先行した教育学部の教育より体感・体得・体現してきた。此の文化の深化と地域の革新を神都の計画と聖地の構造を踏まえ、実証的・理論的に論究しえたのは、学部長の職責に加え伊勢市都市計画審議会会長としての実効的体験のおかげである。

実効的体験の実証的理論は、蘇る日本の時空と時流をオックスフォードとソルボンヌ、ローマ大学と中国社会科学院、スタンフォードと国連大学等海外の大学、学会での相生の文化を基幹に、文明の相生機構を教え、学び、2011年の現代日本社会学部、現代日本学会の発足に際し論文として示した。これで未踏科学の基幹的理論を深め、茶道、合気道の気学授業、駅伝、野球等の課外活動を通し、この仙境で、教官・学生の享有を築いた。

この体験が2015年の日本学論叢第5号で「総合科学的日本学と実践的日本学の統合」の退官記念論文を生み、翌年の第6号で新田新学部長が現代日本社会学部の過去現在未来を巻頭論考で総括をした。此の総括を踏まえJR東海前会長須田特別招聘教授と国連地域開発センター以来の学友、名城大学クマラ、二神の両外国語学部長と共に科学研究費助成事業の支援を受け退官後の5年間、価値の交

敏と創智に焦点を当て持続構造の地域化と持続機構の地球化を論じ、現代日本社会学部としての教学の基本を示してきた。

現代日本社会学部の実証実践の場所は内宮と外宮の中間の倭姫の鎮座する仙境倉田山であり、常若の神宮徴古館、神宮農業館、神宮美術館に加え、神宮文庫等の集積が接遇環境を励起した。2016年のG7伊勢志摩サミット第42回先進国首脳会議での内宮の神前参集体験、サミット前の安倍総理の真珠湾慰霊碑での演説、サミット後の現職米国大統領初の広島平和記念公園演説は、1996年世界遺産指定の原爆ドーム、2010年世界遺産登録、最初の核実験を行ったマーシャル諸島共和国のビキニ環礁を想起させ、同日の世界遺産巖島神社訪問は、同じ祭神の道拓きの宗像大社辺津宮との見えざる関係を想起させた。神坐す社の神都伊勢と神宿る孤島神郡宗像沖ノ島の連動は、平和の連繫を時代の転機に人類に体感、自覚させ、相生の文化享有と文明相生を只然に体得体現させた。この理論的実証と実効的実践統合の創智構造と創値機構構築の体得体現が現代日本学の教学の基本を生んだ。

□ キーワード：相生の文化、文明の相生、平和と清浄の海、遥拝の仙境、世界遺産

## I はじめに一皇学を拓き、日本を開く一

皇學館大學は、1882年に神宮祭主久邇宮朝彦親王の令達で、伊勢の聖地に創立された。同年は、日本気象学会、日本植物学会が設立、神坐す神都の計画と神宿る聖地の構造を踏まえ、学内の万葉の園を散策しつつ、学際的に有意の課題を実証的に究明し、総合科学理論を探究し、平時有事戦時の実践的問題を実効的に解決してきた。1922年の東京大火、信濃川決壊、1923年の関東大震災と同年の倭姫宮鎮座が園芸学会創立と時を同じくし、現代日本学の道拓きの端緒を齎した。

### I-1 神都の構造と仙境の水土

姫宮創設に先立つ京釜鉄道買収法、公布に続く翌1907年に宇治館町設立の神

宮文庫は、農林省設置の1925年に倉田山に移転し、門前に御師福島御塩焼太夫の門を移し、海陸水複合の神都の要の風致を築いた。此の象徴、神宮徴古館は1909年に神苑会により創設、1953年の59回式年遷宮と共に再興された。これと両輪をなすのが、1891年外宮前創設、1905年倉田山移転、1996年現在地復元の日本最古の産業文化博物館、神宮農業館である。

第61回式年遷宮の1993年創設の神宮美術館は、防災、防疫の厚・環、文・教の杜都創りの接遇環境を向上した。伊勢出身の巨人の澤村、阪神の西村両投手に象徴される倉田山球場と催事は大学周辺を、明治天皇船参宮の勢田川汜乱原を越え、消防署移転等御幸通関連整備、御木本幸吉の自転車道改修、市民病院の刷新、松下幸之助寄贈縁の大鳥居、沿道の石灯籠の改修撤去でのゆとりある厚・環で、仙境を育む倉田山の現代神都の風格を培った。

1917年に東京奠都50周年駅伝名銘の勅命初代、武田千代三郎神宮皇学館館長、大日本体育協会副会長は、厚都の風情を蘇生らせ、前任の青森県知事時代の天皇御下問に応え、1922年に「十和田湖保勝論」において持続観光の実効的実践論で史跡名勝指標の有効性を明瞭にした。防災防疫防衛に留意し、神宮と深く係る1882年の陸海の大日本山林会、大日本水産会設立によって、総合的理論科学の構造的有意性を深化し、実効的実践科学の国際的有効性向上の法令的余地構造、余裕の可逆機構を培う「仙境論」を幹に、1940年の神宮関係特別都市計画法施行、戦後の博覧会開催で神都を刷新する実効的実践科学の道を拓いた。

第二次世界大戦後の占領体制下の17年間の閉校を経て、有人宇宙時代開闢の1962年に国産ジェットYS-11、タンカー日章丸完成と時を同じくし新制皇學館大学が現代日本の再興持続構造、可逆的革新機構論究の現代日本学の萌芽を育み、大和奈良への伊勢表街道西縁の名張学舎の社会福祉論を享け、2010年に実証、実践の現代日本学を自然の叡智・摂理の風土、風水、気風に満ちた最適地の神都伊勢に登場することとなる。茶道、合気道を活かし、気学の根本を体得体現し、心身の禊で相生の文化を生かし、宇宙文明を相生し、異体制の共存共栄共棲を生み地域的にも技術と芸術の交歓で住宅等の新商品、サービス、創値を新市場に生み、次元転換場所変換を促した。この一例をあげると横須賀海軍工廠起源、関東自動車工業錬磨の創智機構を活かした、トヨタ自動車東日本

東富士工場変換の創値構造と言える。(Y Miyakawa 2017)

この創造技術源泉と2021年のスマートシティ創生 (Smart Woven City) は新生活生産、意匠創智の公園都市を育み、その源泉を2013年「富士山－信仰の対象と芸術の源泉」、遙拝の文化文明を世界遺産登録で喚起した。2005年のトヨタ白川郷自然学校の叡智、摂理に満ちた風土風水文化の矢作川左岸では、鉄道・高速道路交通の郊外中心に、総合人材文化教育拠点が2001年創設の豊田中央公園、豊田スタジアム、豊田国際村、環境未来都市構想で育まれてきた。

宇宙、地球の新文明開化<sup>あいおい</sup>の相生構造機構を平泉の世界遺産指定で奥の細道に誘った広域中心都市圏仙台と、後述する神宿る島、宗像沖ノ島の遙拝圏が覆う福岡間で、関東大震災の1923年に座した倭姫宮、神苑会の道拓きを受け、内宮の林崎文庫と外宮の豊宮崎文庫間の倉田山に1925年統合の神宮文庫に触発され4次元の時流時空に実証の文学部、実践の教育学部に次ぎ、2010年に実証実効実践の未踏科学統合の証に現代日本社会学部を産んだ。

## I-2 神宮関係特別都市計画法と天地水人の4次元の仙境の意義

倭姫命に土地を寄進し、内宮に誘い、天孫降臨神話を顕現した猿田彦神社は、125宮の神宮配置と大和の陸・海路に加え、重要無形文化財の日本三大御田植え祭りを催す神路川、池下流の内宮の別宮伊雑宮の神威を發揮し、日本名水百選の天の岩戸神話を持つ天地水人の4次元の道拓の地球化の源に誘われ、神都の聖地構造・神都機構を励起してきた (宮川 2012)。

広域伊勢は1946年指定の伊勢志摩国立公園、1529年伊勢近隣を分界と定め、総合保養基地整備で、志摩観光ホテル、志摩スペイン村等を誘い、スペイン・ポルトガルのサラゴサ世界分界協定、伊勢市役所向かいのカトリック伊勢教会の26聖人の一人、大工伊吉の像をアイコンに、2016年5月26・27日に伊勢志摩サミット、G7首脳の正宮前参集で神都の相生の文化体感、文明の相生を促した。

この源泉は筆者がオックスフォードとソルボンヌ、トリエステとサンフランシスコ、国連大学での講義、講演で論究した如く、「歴史の研究」のトインビー、「メガロポリス」のゴットマン、「エキスティックス」のムスカラの歴史の次元、地理の場所、集落の社会の相生の文化の有意性、文明の相生の有効性にある

（Y Miyakawa、宮川 1980、1993、1997、2007、8、2017）。

進化が進む有意な理論的課題解明、有効な実践的問題解決の地理情報システム、高速計量測定分析、量子推計科学活用研究は充分とは言えない。中でも、交歓による創智を旨とする持続観光構造地域化と突然崩壊を避け、平時有事戦時に即応した観光持続機構の観光の業、源、客、地に留意した再生の計量研究は遅れた。神都計画と聖地構造の課題解明と問題解決は、自然を体現する神道の道筋に醸成された神都、神郡、鎮守の杜（神里）の持続構造地域化の緩衝余地、自然の叡智、摂理に誘う持続機構地球化の可逆的余裕の創造は遙拝の風土文化の深耕、式年遷宮の画期に依るだけに時を要した（宮川・山下 2015）。

神都、神郡、鎮守の醸す神道の権威は、天界、地上、地下を貫き、大気、大陸、大洋の変動で、気候、地殻、水土の収支変化を呼び、自然の深化、文化の深耕、文明の開化を励起してきた。神体島・日本の参拝・遙拝の動態、収斂を培い、氏子の信仰、清浄の禊、日供の祭祇で、原始・古代祭祀の持続構造地域化、国水、国土、国民、国権意識、民話、神話、紀記の記載を踏まえ、神道に添い国威を放つ国家祭祀の持続機構地球化を強めた。この神体島・日本の風格向上は、2013年登録の「富士山－信仰の対象と芸術の源泉」のユネスコ世界遺産遙拝の美観と自然の叡智、摂理の現代日本への大道を拓いた（宮川 2014）。

建国の経緯と皇国の神都創成、道拓きと道中の関係では、奈良時代初期の神社の封戸の神郡と神都伊勢の配置構造機構を看過できない。伊勢の多気、度会、飯野、員弁、三重、安濃、飯高、朝明の8神郡と北東の国家前線の房総半島、下総の香取、上総の安房、常陸の鹿島の3神郡、南西源の松江の出雲6社の意宇、筑前の宗形の配置も国威の対外的発現に関わった。

世界遺産登録は、1993年の「法隆寺地域の仏教建造物」に加え、1998年「古都奈良の文化財」として陸の正倉院に脚光を当て、2017年の「『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産群」登録で海の正倉院と称する宗像大社神宝館が海洋国家日本の真の名声を高めた。

伊勢神宮の神寶と特徴が同じ宗像大社神宝館の金銅製雛形五弦琴は神都、神郡、神社間で共鳴と共振する持続革新機構指標の一つと言える。これは、露天の自然と一身同体の原始・古代祭祇、文化を髣髴させ、内面の精神、外形の神

体を共鳴共振させ、神宝の意味意義を深め、両者の相生の文化深化、文明の相生を伸展した。

宗像大社神宝館は、宗像大社辺津宮と高宮斎場の紐帯を釣川左岸に展開し、市役所と孤島沖ノ島に至る離島大島村への神湊港を結ぶ航路と釣川を基軸に神郡の構造を顕現した。玄海灘に面した北西の白砂青松の砂浜、江口遥拝所と南西の白石浜海水浴場、日本海戦記念碑の立つ大嶺山自然公園、東郷神社を擁し、津屋崎の宿場町、神功皇后緑の宮地嶽神社前面の宮地浜海水浴場と福津背後の緩やかな新原奴山古墳群も、時流の織成す遥拝圏の風土文化を培い、時空適合強化の布石、史跡名勝を活かし、海陸空水一体の神宿る神体島の環境生態、文化社会の広報を誘った。北では、宗像大社の神宮寺の鎮国寺、釣川左岸の新たな道の駅むなかたと古くからの玄海ロイヤルホテル間に浄光寺を擁し、北東端の縄文遺跡を持つ鐘崎漁村の世古を核に祭祀の再考を促した。

7磯、浦、津、浜、港、灘、島の海洋社会を基底に玄海灘の神宿る島沖ノ島を遥拝し、氏族の古代祭祀を源泉に国家祭祀の神道を開化しつつ、538年の仏教伝来、594年の仏教興隆の詔を受け、様式を整え、敬神の詔下の607年の遣隋使、法隆寺創建、621年の新羅朝貢、630年の遣唐使派遣、645年の大化の改新と内外の政治文化の変革を経て、律令と仏教を両輪に国家創成、拡充が727年の渤海使出羽柵訪問、海路、海中記を齎した。

これで陸海の大乗、小乗仏教伝来後の朝鮮半島の南の百済、任那、新羅と北の高句麗との興亡を経、東の対馬海盆の北、大和海嶺の西、勃海南の日本海海の北道中への関心を高め海底地形での海流変化、構造変革が日本の海力・気水の循環の視座を強めた。

オホーツク海と宗谷海峡で北方を、東支那海と対馬海峡で南方を区切り、対馬暖流と北のリマン寒流の対峙する海難の名所、玄海灘の孤島、沖ノ島の海況と滑石の船形代が象徴する交易と交歓、遣隋・遣唐・渤海使等の外交と芸芸交歓は、平時有事戦時の構造変質、機構変化、秩序崩壊を産んだ。この空陸海水の状況変化の予兆は、禁忌の神宿る島、沖ノ島の神霧雲風に顕れ、御禊・手水、神水で純化、醇化、順化した神官の遥拝、参拝、祈祷の祭祀が呼ぶ心身の救難、突然崩壊回避、余裕の可逆機構作動の国家創成体制革新で、神都、神郡、神里

の道拓きの前線を城・砦・柵、国衛・国分寺・尼寺、延喜式神名帳での神社配置秩序の体制、体系、構造、機構に顕現した。

## II 国家祭祀の創成と古代祭祀の変容

### II-1 縄文時代の文化相と世界遺産の風致

古代国家創成以前の縄文遺跡群を踏まえ、北陸の河和田と遠州の嶽山を結ぶ東西文化相を超えた北縁の「北海道・北東北の縄文遺跡群」の2019年世界遺産推薦書の提出で、躍動する縄文文化の海峡を超えた最大級の特別史跡を活かした前線の伸展が刻まれた。青函海峡を超え、蝦夷の連続的自然文化の風水、風土を基に、下北半島の物見台、津軽半島の三内丸山、亀田半島の函館に及び、2021年に17遺跡を登録候補とした縄文居住継続先史遺跡群の風致は、海峡を越え、相生の文化、文明の相生の遥拝圏を広げ、津軽、下北、大沼の国定公園、青函トンネル、津軽海峡文化館佐井村アルサス、海底遺跡と北縁の越境公園に縄文文化文明深化の紐帯を産み、持続構造地域化、持続機構地球化を強めた。

この海峡と同様、越境する崩れ地形でほとぶ女神の荒御霊の如く表面の砂岩、頁岩、斑岩の白映えの沖ノ島灯台は、南の玄海灘の孤島での海難を飲吸許可で救難に誘い、1、2、3の岳の灯台廃止を容認させ、玄海灘の無人の孤島沖ノ島の自然の摂理、禁忌の叡智で神体島の白映が総合科学的有意性、原始・祭祀の摂理、叡智を強め、古代祭祀の実践科学的に有効な国際評価を高めつつある。

風致の風格、風光を醸す景観は、玄海灘の孤島の神体島の遥拝圏の持つ持続の地域化構造の有意性を高め、国家創成と地球化の持続機構の有効性の外交指標を明瞭にした。白岳に至る崩れ地形は、古代の祭場、古い遥拝の風土と蓮山の雲霧の景色の醸成する世界遺産の持続構造地域化と沖津宮北の巨岩、宗像大社方向の盤下の黄金蔵の寄せ物が持続機構地球化の文明相生の兆しを放った。この相生の地域社会文化構造深化と地球政治経済機構相生は、宗像大社神宝館収蔵の国宝級遺物や海の道むなかた館の海難での漂流物、海洋環境浄化の産む国際漂着・収納遺物、浄化残物に顕現している。

磐鞍下の国宝級古代、国家祭祀の遺物の金蔵は神宿る玄海の孤島の威厳を高

め、救いの靈力・浄化を現し、地球環境浄化の総合指標の有意性と清浄な現代文明相生の有効性向上の神話、記紀の記載、法制化の意義、意味を祭祀の奉獻品、研究、神都の正宮、別宮、摂社、末社・所管社の配置に顕現させた。

この文化深化、文明開化の海港、禊の御前は、1971年の印度ソ連20ヶ年友好協力条約調印、沖縄返還協定を機に、国連の中華民国脱退、中華人民共和国加盟と日中国交正常化、石油危機、変動相場制円高の政治経済構造機構変換で時代の転機を表徴した。1973年の禊の御前の避難港指定は、現代日本の玄海灘の時空時流、変動変質を心身に神宿る島の防人に、古代祭祀の風致、自然文化の叡智、氏族社会の摂理を体感させた。源泉には風土が養い、そこに集った人々に有意な総合指標の巨岩、巨木に滲む自然の叡智、摂理を体感体験体得体現させ、有効な広域・国家・地球・宇宙の国際認証、憲章法令、慣習慣行を顕現し、相生の文化の有意性深化、共生、相生の文明の有効性の高揚がある。

玄海灘の孤島沖ノ島は、全島、宗像大社の境内・鎮守の杜で、法令規制、大社の禁忌慣行から、不言不出、心身の海禊を享有し、避難港、天狗岩、御門柱、小屋島を門戸に配し、神官、信者、防人の風水共同体の構造の地域化、機構の地球化を強めた。この水神、水霊を絆に、海人・海神の救難、豊漁の湊、砂州の摂理、白砂青松の浜、潟の塩田、干拓は、半農半漁村集落の革新創値の接遇環境を成した。この持続構造の風土文化の地域化に加え、日露戦争での日本海戦と日英同盟を踏まえた聯合艦隊の勝利、東郷神社建立の明治、大正から昭和を転機に、極東、東亜、欧米の文明相克を相生文化深化の持続構造緩衝余地、相克の文明開化の持続機構を可逆の余裕で相生した。

この神宿る島宗像・沖ノ島の遥拝で培われた自然の叡智、摂理は、縄文以来の鐘崎の如き開放的漁港の伸展に加え、宗像海人の兵站基地として入墨を内外連繋の印として東南アジア・太平洋にその活躍の場を広げた。玄海灘沖離島大島・地島を含む七浦を見あれ祭りの船首の旗印で一丸とし、祭祀を構造的総合指標に革新機構の漁労が航海の総合兵站基地に育くんだ。

## II-2 誓約の道筋と兵站地の棲分

この基盤の基軸が、宗像大社辺津宮と中津宮、沖津宮遥拝所を備えた水霊、

神体の沖ノ島との有意な総合的指標、草薙の剣の誓約の心身一体の神話の道拓きの道筋で、物種の剣の鋭さと玉の和を持つ。日本人町、交易路、倭寇兵站地の歴史を包摂した今日の日本の経済社会管区水域の要の遥拝圏は水路展開の環帯、海環、回廊をなした。流域への定住、就業、祭祀、余暇と深く係ったのが釣川の水路延長、宗像市役所南東を併走する海陸の交通の北西端の神湊の港湾集落の伸展である。北海道中記、遣隋・遣唐、渤海使等の外交誌に記され、防衛拠点をなした玄界灘の宮地浜沖が、日英同盟、日露戦争の日本海戦持続構造の有意性向上、入墨の持続機構地球化機構の有効性統合を象徴している。

海洋気象台設立の1920年、ホノルルでは第一回汎太平洋学術会議が開催され、1926年には沖ノ島の照葉樹林原生林が天然記念物に指定された。照葉樹林北限の風土を培い、自然の叡智と摂理の映を涵養、不言不出の禁忌、入島前の全身禊で、玄海町の宗像大社境内での辺津の宮と福岡最大の有人離島、旧大島村の島嶼大島の中津宮とは神体の次元を異にした。全島神宿る宗像・沖ノ島を天照大神が日本武尊の剣を物種に、一体化する3女神の境内と同じ規律の下、当直の神主は、防人としての兼務を果たし、清浄の神威を共に磨き、平和の海廊の玄関を固め、相生の文化を深化し、現代の次元・場所で文明相生を促す神体島に磨き挙げた。黄金谷を始めとした古代祭祀跡、沖の瀬、太鼓岩間の荒船岩の先に、御前、鐘崎を包む避難港を東南の照葉樹林の覆う脊梁の間で、照葉樹林を天然記念物に指定した翌年の明治節設定、山東半島出兵の1927年に国庫補助で大島漁業共同組合が沖ノ島避難港築堤工事に着工し、隣接地に、救国の白映の国家祭祀を忍ばせた。禁忌の神宿る島沖ノ島の文化的社会的制約と軍事要塞地帯の政治経済的制御の中満州国建国、日満経済ブロック形成、農山漁村経済更生運動計画下の1932年沖ノ島旧社殿改築以降の産業統制法公布、戦時経済体制確立下、マッカーサー西南太平洋聯合軍司令官任命、出光佐三を会長とした宗像神社復興期成会設立で、総合指標としての鄙の田園の宗像大社の救難、可逆の有意性、緩衝余地と大社再生での可逆余裕の機構に有効な権力権威の転機、緩衝余地の構造を齎した。

釣川左岸の要、氏神の鎮守の杜宗像大社、辺津宮、神宝館に加え、宗像山麓の古代祭祀跡、高宮祭場を要に、北東の釣川右岸の神宮寺、鎮国寺が、白砂青

松のさつき松原背後の河口東、江口の藤の浄光寺が前世現世来世を繋ぐ浄土の風雅を漂わせた。これに対する西南の釣川左岸では、新原奴山古墳群が、海人宗像氏族の古墳を想起させ、奴国周縁の氏族社会の地域化構造確立、不言不入、不出禁忌の沖ノ島古代祭祀の国家祭祀への変容、遥拝圏を活し、寄物等廃棄物の現地調査、処理で原始祭祀をとりおこない、技術、体制両面で神坐す清浄の地球化機構を蘇生し神宿る地域化構造を深化した。

### Ⅲ 沖ノ島の神威と遥拝圏の棲み分け

#### Ⅲ-1 白映の自然灯台と天地水人の棲み分け

氏族社会の広域化機構伸展と遥拝圏拡充は、農村社会形成に加え、漁村社会の農林漁業地域革新浄化を呼び、玄界灘の社会経済地域構造と政治文化革新機構変動で平時有事戦時の持続構造機構を変えた。

これは、厚生・環境の総合指標の有意性に加え、地球・人類規模での汚染、悪化と係る環境汚染防止、厚生・環境悪化機構の総合指標への関心を北九州で徐々に高め、脱炭素、国際環境浄化運動（Zero Emission）の萌芽を育くんだ。自然構造、文化機構の不安定化は突然崩壊、時代時空の転換の予兆、復調の兆しを示し、2017年登録の世界遺産「『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産群」の真価を表徴してきた。この神の島の緑の天然植生育成で、灯台を擁していた一の岳の風化脊梁が灯台の如く白映し、古代祭祀の巨岩と神体の入口の小屋島、天狗岩間の御門柱を鳥居とした。南西岩を背にした避難港は、旧社務所と沖津宮横の4号洞窟縄文祭祀遺跡を擁した。海難名所の玄界灘の避難港の不出の禁忌の神意が飲水持ち出しの例外を許容し、海難救助の神威に高め、神宿る島の1級灯台廃止後も、明りに白映する自然灯台の風光を保ち、不言の無人島（おいわず様）の風水を強め、東亜、朝鮮、日本の大海との交流の増大と共に、玄海灘の救難の名声、遣隋・遣唐、渤海使増大に合わせ、救いの沖ノ島の国家祭祀の場所を固め、遥拝圏を広め神威を高めた。

渡島に際しては、大島で潔斎し、上陸する男子は、上陸前に全員禊し、禁忌を守り、神官は大社の境内規則に則り宿直業務を果たし、1級灯台廃止後の灯

明管理、気象観測、防人日記等で道貫命の神徳を持って有意な航路、避難島管理を果す。海人宗像氏の3女神は多面的海・水・神一体の護国道拓きの天孫奉助の神格を体現し、地球規模の自然、人文両面の慣習、成文の海洋法の新秩序確立の糸口を開きつつある。

この平和の海廊の南端、海難の名所・玄海灘の要とし、明治節設定の1927年に大島漁業協同組合の沖ノ島避難港築提工事が福岡県によって着手され、1928年には日ソ新漁業条約で日本海の平和の海廊の新秩序を生んだ。この背後では、1927年にリンドバークの大西洋無着陸横断飛行、和蘭ゾイデル海淡水化計画で水の惑星地球の新秩序が伸展した。

神宿る沖ノ島の古代祭祀遺跡の調査は、関門国道トンネル貫通、太平洋マリーシャル諸島共和国、ビキニ水域調査（2010年世界遺産登録）・日米放射能会議が奇しくも催された1954年に沖ノ島第一次学術調査（1954-1955）、第二次学術調査（1957-1958）、1962年国宝指定を受け、1969年第3次調査で総合理論実証の礎を固めた。この調査結果は、世界遺産登録に有意な総合指標と非核の国際認証に有効な遺跡遺構で世界遺産登録の布石を打った。

この相生の文化深化、文明相生は、持続観光構造に有意な地域化、観光持続機構地球化を促す機構体制登録の時機を熟した。この風致増幅、反転構造機構に加え、国連人間環境宣言、貿易自由化、公害、水不足で、現代の開闢がなされ、国土庁（1974-2001）が治・利・環・共の視座での水土論、雲霧、海流の風水論を両輪に、大陸、大気、大洋の循環論、変動兆候を整理し、平時有事戦時の突然崩壊緩衝地域の余地構造、可逆地球の余裕機構を築いた。

1975年の岡山・博多新幹線開設は、日本の首都東京と陪都の博多を結び、中央日本を励起した。地球規模のギガロポリスの首都東京と東亜の陪都、博多を紐帯に主要都市を連動した。このオホーツク海から南シナ海に至る平和の海廊を基軸に、環太平洋、印度洋、大西洋、北極、南極海の平和の5海環は、共振し、陸海空を結ぶ宇宙神話での天地人の水の道拓きを促し、史書と誌書を活かした宗像の入墨の如く広大な大洋の氏族文化社会の連繫を紐解いた。一方、宗像氏の日日の禊は、清浄な防人を論し、自然の叡智、摂理を体感体験体得体現する体制の古代祭祀の場所と方向の体系を蘇えらせてきた。岩上（4-5世紀）岩下

(6-7世紀)の古墳祭祀、国家創成の律令時代の半岩陰、半露天(7.5-8.5世紀)露天(8-10世紀初頭)祭祀跡地に類型化され、持続の神社祭祀の風水土が深められた(正木 2008)。

1971年の第3次学術調査終了は、一の岳山頂1級灯台廃止、沖ノ島全島史跡指定等で、海況、気象、環境変化観測を毎日当直日誌に記し、全身全霊で不言不出、不携禁忌を守り、沖ノ島の宗像大社純正境内を清浄に守る神職が高次の古代祭祀を勤めた。

この有意な遺跡遺構保存は神職に委ねられ、自然のプレート構造沿い、縄文、弥生式土器の東西文化境、西南端の鐘崎貝塚、海陸の農林水産業革新前線、信仰を際立て、海洋の宗像氏族興隆源泉を涵養し、遥拝の風土文化圏、持続産業構造、産業持続機構を拡充した。陸海空を巡り、人を活かす水の道拓きの祭祀、霧雲海浪収束の状況は、遣隋・遣唐使、渤海使等外交の国家祭祀と陸海の絹の路等と国際祭祀と関連し、神宝館の調査研究で分類され、『海の正倉院』収藏品とされた。この奉献の品々に加え、新羅等の海賊の収奪、玄海灘の沈船の寄せ物、海の道むなかつ館での廃棄物のマイクロプラスチック展示、清浄、漁業生態系保存の圏域清掃運動を国際フォーラム等の催事で励起し、次論の如く、清浄風土文化・文明を伸展し、玄海国定公園の白砂青松の風致を培い、頁岩の崩壊地形で白を標す海の自然灯台が放つ救難指標の国際認証有効性、神職の総合指標の日供祭祀の有意性、神宿る島の不言不出禁忌の伝統で、地域化構造、地球化機構の両面で神坐す神体島沖ノ島の自然の叡智と摂理を体現した。

神宿の沖ノ島の後期縄文海進(3-5m推定)と日本あしか再生墓は、杜務所前遺跡の土地利用復元を促し、救難の緩衝余地構造、可逆機構を感知させた。砂浜と大麻畑、湧水、祭祀場所の復元、新旧沖津宮、黄金谷、遺構調査、日日の交代奉仕は、盤上の形状、方位、傾度で、生態的重層的に原始、古代祭祀を通し、沖ノ島の自然の叡智、摂理を増幅し、不言不出の禁忌と持続観光地域化構造、観光持続地球化機構による相生の現代文明を開いた。

沖津宮の叡智摂理の風致、海流の織りなす遠賀川流域の縄文漁労の創値、縄文石器土器蘇生の本源本道は、操船技能技術を高め、長崎松浦・星鹿半島、大分国東半島姫島の黒曜石取引で、広域祭祀、国家祭祀と深く関係し、宗像氏は

外交、貿易を担当、公船、気象観測を担い、縄文中期の相生文化も瀬戸内海を超え、玄海灘を覆い日本文明を相生の日本文化を基軸に内外、自然、人文の文明の相生で開化させた。

### Ⅲ－２ 神郡宗像の祭神と国家創成の萌芽

宗像の海人は57年、107年の倭の国王の後漢へ、239年の倭の卑弥呼の魏への遣使で、古代国家創成の重層的外交圏を培った。百済の扶余遷都の538年には、百済伝来仏教を受容し、敬神の詔を発し、小野妹子の遣隋、法隆寺創建の607年を享け、630年の遣唐使、645年の大化の改新で、古墳と律令の時代を変え、古代祭祀の場を臨海の磐上・陰・露天から、国家祭祀の所に移行した。古代祭祀と国家祭祀は奉獻品の質量を異にし、奉仕の任務、岩の形状・方位で、原始国家と広域祭祀の意味と意義を違えた。この玄界灘の前線収束帯は、日本の気候変動の源泉をなす海霧と荒波を産む印度ヒンズー教の破壊の神シバによる、持続構造地域化と持続機構地球化、相生文化深化と文明相生の猶予伸展を想起させ、宇宙時代の地球・地域の根底の文明文化の共棲共栄、陸海の大気・水土・水霊・水神の持続構造機構を励起させた。

沖ノ島は日本と朝鮮の間にあり、朝鮮の政治外交機構、社会経済構造の変遷と繋る遺構がある。船載物資は、鉄製、滑石の製品という陰の武器に、海陸のシルクロードとの交流交歓で文明圏を広げ、日韓・日亜・日欧・日米の広域構造、地球化機構を培ってきた。676年の新羅統一、698年の渤海建国は、宗谷海峡を超え、リマン寒流を活かし、727年の日本通航で、東京龍原府と日本の松原、能登客院への主要通航路に、台湾海峡を超え玄界灘に向う対馬暖流を活かした航路と対峙し、713年の元明天皇の詔の風土記文化を深化した。

この文明の相生、開化の下、645年の大化の改新に伴い国郡里の地方行政体制も整い、649年には、延喜式の神社配置に沿い、宗像大社の統治する封戸、神郡も建置され、神主と郡司は兼務し、社領を治め、氏人の遥拝圏を深めた。政治文化機構と宗像の3女神を奉持し、海洋を生活の糧に、漁猟、操船の技術技能を磨き、遥拝・参拝圏を象徴に、宗像大社の末社の元宮、参拝の鎮守の森、御成敗式目制定前年の1231年の官宣旨で、宗像郡曲村40町を寄進した如く、神

郡制社会文化の慣習構造地域化、政治経済機構地球化での神郡祭祀を伸展し、重合的に国家を創成し変質を表徴してきた。

この慣行・機構の自然文化面での地球化の伸展は、遠賀郡の芦屋津から新宮町の新宮浜の遭難、難破、漂着物を75社の修繕費に、遥拝圏の自然、文化政治、社会経済的眺望構造、宗像大社の原始祭祀、古代祭祀、国家祭祀、3宮構造、遥拝所、古墳造営で、持続観光構造地域化、観光持続機構地球化伸展の風水土に投じ、遥拝の源を培った。

8-9世紀の遣唐使南・北航路確定で、東垂と大和との航路は玄海を避け、広域圏縁辺の異なる海況に移り、国際航路の意義を喪失、時空次元転換、場所変換を惹起し、対馬越えの玄海灘に対峙し、博多港、福岡、水城、大宰府の陪都構造を変革した。649年の宗像神郡設置、大領（郡司）の神主による兼務は649-800年まで続き、地方統治の権力と権威を両輪に655年の天皇家との婚姻、712年の古事記の宗像3女神と胸形の君の由緒記載、720年の日本書記での天照大神の勅令で、降臨地の筑紫、玄海の守護、道拓きで、有意を23遺跡構造で示し、公私の航路開発と海難の関連、持続地域構造と地球持続機構への関心を高め、国家祭祀の有効性を深めた（小田編、1988）。

神郡、宗像大社、沖ノ島の遥拝圏の構造は、天照大神と素戔鳴尊姉弟による天安河原での劍珠誓約で潔白を尊の劍を物種とし、天真名井に漬け、水の靈力で清め、嚙んで噴出した狭霧の中から田心姫、湛津姫、市杵島姫の三女神を次々生んだ。

尊も、大神の玉を物種に、嚙で噴出した狭霧の内から5人の男神を生み、潔白を明瞭にし、尊の劍の物胤で、大神の子孫を一直線に鋭い狭霧に包み、清め、温かい大神の狭霧の心で包み、地域化した3女神を地球化した遥拝圏で禊、手水で清め、参拝で文明の相生を有効に促し、平時有事戦時の持続構造の突然崩壊を緩衝する防災余地と防犯、防疫、防衛等可逆革新の余裕の持続機構を培った。

この古事記や西海道風土記に残された神話は、俗界と神界を超越し、自然の摂理と叡智、持続構造の地域化、持続機構の地球化で相生の文化、文明の相生を只然に促した。これは、防災防疫防衛に天上天下天地の別れ道で3神がみあ

れ祭りの如く一系一体で大社に戻り、狭霧の誓約の禊の姉弟の靈力を合わせ、正しく対処し、鋭い剣の如く尊の、大神の天神の狭霧で磨かれた厳格な相生の文化と相互交歓の産む珠の如き和らぎで風水風土を覆い、人神の相生の叡智で文明の相生を産む神人の和みの絆を機構化し、姉の大神の珠を物根に弟の現世に生み出した5男神の構造的守護で、有効な心身一体の神の道を示し、神話を超えた現世の人の道を感得させ、天の時、地の理、人の和を一体とした。

国家祭祀の絆は、伝承と神話、古事記と日本書記、風土記と地誌を一つにし、国家創成の道筋を明らかに、清浄な海陸遙拝の玄界灘の孤島の白映の神体島の美観を要に、霧雲と不言不出の禁忌、有意の救命救難、奉献の国家祭祀で、国家創成の文明開化を促した。

### Ⅲ－3 自然の叡智と世界の自然遺産

宗像の道拓きの風土は、宗像大社の風格の有意性を持続観光構造地域化で磨き、国際認証で観光持続機構を地球化し有効性を増した。

この地域化と地球化の同期、革新は、海人、豪族宗像氏の氏族社会創出の神都、神郡、鎮守、聖地の構造を基に古代国家創成の時流と宗像3女神信仰を培った時空に展じた。新羅統一に触発された698年の渤海建国、渤海使出羽派遣は、入京の727年以来頻繁となり、菅原道真任命、894年の遣唐使廃止、901年の太宰権師左遷に次ぐ、905年の醍醐天皇銘での延喜式の編集着手、939年の平将門、藤原純友の乱で、律令大和王権、国家建国の渦を変えた。

神都・神郡の統治体系変換の渦を起こした玄海灘は、南西の対馬海峡と北西の宗谷海峡間の日本海の玄関口に当たり、極東アジア文明の伸展、交流、海難の玄海灘での大陸、大気、大洋の風見の孤島をなし、記紀に記された宗像3女神の長女を祭神に沖津宮を建、心身、奉献の救難地をなした。

この自然の神水と露天祭祀の4次元的水土論が、吉留の平山池を源泉に、中流の3kmの釣川河口左岸の宗像山中腹の下高宮古代露天斎場、宗像大社辺津宮、海人宗像氏の居住する離島大島の御嶽中腹の露天斎場と海辺の麓の中津宮に自然の叡智、摂理を涵養し、自然の叡智、摂理に卓越した相生の神道文化が海陸を覆い、沖ノ島の露天祭祀、奉献品、海難の国宝級寄せ物風土が涵養した

海陸文明の相生を神社祭祀や宗像大社神宝館の神宝、国宝に顕し、清浄文明の相生の本旨を示した。

この不言、禁忌の神宿る島沖ノ島の沖津宮と大社の3宮、摂宮、末社の鎮守の杜の風土文化は、北東の四塚連山、南西の福津市勝浦・手光間の国指定史跡に地域化し、根付かせた。この60基の津屋崎古墳群の内、古代豪族宗像氏の5-6世紀構築の41基の新原奴山の古墳群と北東の陸の釣川、海岸の樹齢200年とされる防潮美林のさつき松原の基軸を育み、玄海灘の自然の世界遺産、救難、不言不出の神体の神宿る島宗像、沖ノ島の地域化の構造、地球化の機構を醸成し、農林漁村の景観、厚・環、文・教の4輪の田園都市相生文化深化・地域化の持続構造、両端の南西の博多湾、北東の関門海峡を両輪に、地球化の持続機構で文明相生を促す東亜の大陸、太平洋の海洋を共棲させ、日本の経済管区水域、大陸棚と大気が覆う平和の海廊の仕組みを世界遺産登録の風格で自然の叡智を作動させ始めた。

#### Ⅳ 平和の海廊の要、沖ノ島と陸海水の神郡の分界

##### Ⅳ-1 海北道中の分界と暖寒流の飛沫

辺津の宮の田島、中津宮の大島、沖津宮の沖ノ島、氏族の基盤、水渦、沼無渦、空渦、田島と神体の玄海での動態を具現し、関門海峡を跨ぐ築前・筑紫・豊前の広域、古事記神話の筑紫島（九州）、神郷の倭、神郡の出雲、神都大和の国家、日・韓、新羅・高句麗、高麗・渤海の国際・海陸の絹の道での厚環・文教の深化は文明相生の環帯に応じた。この風土文化は、南下するリマン寒流と北上の対馬暖流の醸す濃霧、多霧の覆う海北道中で培われた。道主の貴貴、宗像三神涵養の大気、風水収束は、玄界灘の豪雨と強風、海難の孤島を徴した。

沖の島の田心姫の神の浄水に加え、尊の剣を物種に、大神の授かった尊の兄3神の神主（御身の像）の空渦・身像を海人の形態とし、大洋の氏神の下に氏族を培った。西海道風土記筑後川東畔の水沼君伝承は、リマン寒流と対馬暖流の織成す大気の覆う宇佐島、芋山国（鬱量・竹島）の氏族社会の襖の風土文化に源を持ち、宗像・水沼はその主流をなした。中でも氏名、生命の源に、気吹

きの狭霧の下、市杵嶋姫、霊依りの神が逆巻き、沸き挙り、磨き挙げた禊の寄物の廃棄物清除は、自然の叡智・摂理を凝集し、神宝館の国宝に匹敵する廃棄物の有価物化の創智を顕現し、風水土文化・文明の相生の象徴景観醸成を促す、4次元の宇宙、地球、国際国家、広域の催事開催が望まれた。

鐘崎漁港と神湊港の間の白砂青松のさつき松原と宗像山の中腹を宗像大社高宮祭場とした淀川兩岸のさつき松原の東北端の織女神を肥前国風土記の姫社郷伝承で荒神とし、宗像市玄海町鐘崎鎮座の織幡社を象徴に宗像郡・水沼君を紐帯に、日垂の社会文化の交歓、政治経済の交易と防災防疫防衛の海洋を顕現し、持続の国際広域構造と相生の持続地球化機構で、国家の祭祀と体制の関連、分界の構造・機構の飛沫を徴した。

宗像の逸話、崎門（宗像）山降臨は西海道風土記逸文を基に伝承され、古代祭祀を培う古事記を軸に国家祭祀化し、国家創成を主導する氏族社会の相生の文化を深化した。応神天皇3年（272年）に海人の宰として鐘崎の海部郷を官署し、諏訪大社を軸に、孔大寺山麓、赤間等の物部氏を活かし、大和の宗像氏統制で文明の相生を日本書記、国家祭祀に留意し、日羅調停を促した。神都伊勢を輔弼する鄙の神郡を顕し、縁辺陪都博多への新羅侵攻、北縁陸奥は大地震津波のあった869年に貞観格式頒布で国衛支配から在地神祇に変貌、南のフロンティア長崎では諏訪神社の鎮座で国際化の源泉を培った。大神の尊の剣の狭霧の覆い、3女神を生んだ玄海灘の時流時空、大和の次元、場所の変動変革は古代国家倭の有意な地域的持続構造を強め、594年の仏教興隆の詔と607年の敬神の詔で、有効な持続機構地球化の広域的制御、相生を神都、神郡、神社、鎮守に呼んだ。

この地域化構造を反映した有意の総合指標が、釣川下流左岸の辺津宮奥、宗像山中腹の高宮斎場の宗像氏の古代祭祀と言える。類似した古代祭祀は、河口対岸の玄海灘の神体島、沖ノ島に向う漁船の基地、宗像海人の一大漁業基地、漁村集落、左岸の白砂青松のさつき松原の西北端、神湊と市営渡船で結ばれ、更に南西端の泊と中央の東の沖ノ島展望台に向う白浜の二つの渡船場、東の厳島神社と西北の牧大明神・恵比寿神社を持つ地島を擁し、玄海灘の離島の交歓を記した。

この2島の内、釣川左岸、宗像山の山麓の高宮祭場、その山麓の辺津宮と沖ノ島を鋭利な直線の剣を物根（胤）に神勅に従い、噛み砕く前に心身を一とし、田心、端津、市杵嶋の珠の3女神を結び、日韓渤海の基軸をなした。海人宗像氏族の漁業基地、漁村の大島と胸形の農漁村を育み、田島、大島、神宿る沖の島を結び、心身を禊、神勅を体現する神道は誓約を拓く人道、禊の体現でもあった。

#### Ⅳ-2 神仏習合の風土と都鄙の相生

西方浄土に向う平安遷都の794年の神前読経、838年の最後の遣唐使安全祈願で公私の権力・権威の神仏習合の芽を育くみ、沿岸の賊の禁を願った。1263年に神宮寺、鎮国寺を生み、持続構造地域化と持続機構地球化の要の精神風土の源泉を培い、遥拝圏を拡げ、蒙古来襲、撃退を先導し、陸海空一体の遥拝圏・防衛圏を強固にし、構造的余地・機構的余裕を欠く突然崩壊を避けた。

1368年建国の明の年中行事には四季4回、舳先の長妙を象徴に沖津宮（息御島社）と宗像大社の第一大神宮（辺津宮）間の年4回の神迎えの御長手神事が標され、国家鎮護の大幟を船首に飾った御座船を宗像7浦（地の島、鐘崎、大島、神湊、勝浦、津屋崎、福間）より大島に集った供奉船に玄海灘を基盤に育った供奉船を加えた沖津宮の田心姫神と大島の中津宮の瑞津姫神の二艘の御座船を宗像大社の辺津宮の神々の待つ神湊に集うみあれ祭りが戦後確立し、浦安舞、風俗舞、翁舞、流鏝馬も奉納し、宗像大社の秋季大祭、五穀豊穰、海上安全の田島放生会の中核として、相生の風土文化深化と厚生・環境・交通・交信等、多様な重層的異質文明の相生を促し、持続観光構造地域化と観光持続機構地球化の基幹風土を育んだ。

#### Ⅴ むすび — 神宿る神郡沖ノ島と現代日本文明の開化 —

外海に向かう水運の日本海の難所玄海灘の神宿る島沖ノ島と内海の瀬戸内海を経て、国家創成地大和に向かう水運は、皇都と水運で結ばれ、時流に即し時空に適した海陸の浄化の気運の回帰を励起し、水運の円滑、持続構造・革新機

構に配慮し、住吉大社、金比羅神社等の配置、交歓に影響されてきている。

#### V-1 世界遺産風致の伸展と相生の日本文化深化

1993年日本初の世界遺産として登録されたうち、国家創成、権威権力と深く係る「法隆寺地域の仏教建造物」は仏教文化の風水土の相乗効果を発揮し、浄土に浮かぶ寺社と自然庭園を育み、「姫路城」は1333年に赤松則村が姫山砦を母胎に権力を産み1609年建立の5層7階の日本百名城の国宝白鷺城が国風文化の権威を表徴した。この権力・権威一体の象徴が、黒田長政の福岡城下で、荒津山（福岡市西公園）や魚町（赤坂）の沖津の宮遥拝所で、春の田植え後の慰労、秋の収穫祭に向けての無病息災を祈念し、神宿る沖津宮の風土に神意を感得する宗像海人の沖ノ島籠りを体感した。

神社が、世界遺産に包摂され光を発したのは、1994年の「古都京都の文化財（京都市、宇治市、大津市）」で、17の京都、平等院、宇治上神社を含む宇治、比叡山延暦寺の大津の2県3市、上賀茂、下鴨神社を含む都の京都の広域文化圏である。1996年には広島「厳島神社」「原爆ドーム」が登録され、背後の神体山麓の社殿と前面の国立公園、広島湾口の干満差のある入江と一体に厳島の海浜の大鳥居が瀬戸内の干満の差で、平穏時空の調整の余地と平安の時流表徴の美観、風格、風水を徴し、原爆ドームとして知られる1915年開設の広島県産業陳列館（奨励館）と合わせ国際認証を得て、平和祈願の象徴・アイコンとなった。

厳島神社大鳥居は御祭神を同じくする世界遺産の「神宿る島宗像沖ノ島と関連遺産群」と、天地海陸一体の宗像大社の境内地の風水風土、平穏の標を成した。この三女神を祭る西翼は佐賀の唐津市加部島の対岸、呼子の田島神社で国家鎮護の道を示し、玄界灘の漁師、松浦党の水夫の平時の水難、有事の防疫、戦時の防衛対処の道筋を拓いた。

玄界灘は日本外交の玄関口、玄海国定公園の要で、政治経済、社会文化的経済管区水域の南シナ海背後の尖閣諸島と北のオホーツク海と南の日本海を画す間宮海峡に臨み、日本海の平和の海廊の道筋で、その海底地形に要衝を顕す。

一方厳島神社は、日本海岸の京の都の背後、若狭湾西北端、宮津湾の丹後天の橋立大江山国定公園の日本三景の天の橋立に対峙する。天の橋立、元伊勢籠

神社の奥の宮には真名井神社が鎮座し、北西の風水土の要をなし、鄙の北東の太平洋岸仙台湾の日本三景松島の260島的美観、国宝瑞巖寺に対峙した奥州一の宮の塩竈神社が持続観光地域構造、観光持続機構の交歓で、矛盾相克を止揚し、相生の文化を深化した（宮川 2020）。仙台湾の東北端に位置する三陸復興国立公園に包摂された南三陸金華山国定公園には、西の安芸の宮島、東の鎌倉に近い相州の江ノ島、古都奈良、京都背後の大和天の川、近江の竹生島と同じく玄海の宗像三女神の参女、市杵嶋姫命、陸海気水結びの弁天が鎮座した。

これに加え、東、西廻船で商都の海港の摂津・大阪の住吉神社も、瀬戸内海の北東端に配置された。そして、西南の瀬戸大橋を越えた善通寺、那珂の象頭山の漁労、航海、福德の国津神の象徴、中国山地を越え、西の日本海岸の出雲大社の祭神、大物（大黒）主神に崇徳天皇を祭神とした金比羅神社を擁した。

関東大震災前年の1922年に、宗像市隣接の福津市の金比羅神社に御嶽山上空の御幣から船団に伸びる絵馬が奉納され、大島と沖ノ島の間を神中とし、大島南の漁港背後の海拔15mの台地は、中津宮本殿を擁し、背後の宗像地方を一望し、滑石遺跡を古代祭祀跡に、最高峰御嶽の玄関口に、潜水漁民、漁船の集う人口1300人程の周密な漁村を培った。

この大島の地域内構造に加え、宗像山麓を過ぎる釣川河口で、国道と交差する地域外構造の要、海陸の交差は、勝島に守護された。

大島、地島を結ぶ市営の渡船の港、神湊から、神宿る島、沖ノ島に参拝を禁忌の下で行う者が参籠し、禁忌故、沖ノ島遥拝所で退く妻女と別れ、北西の強卓越風を避ける雨戸を通じ、宗像大社の3宮の絆、自然の叡智、摂理、風致、風土の意味意義を体感体得し、平和の海を育んだ。大島は、前世現世来世の地域地球宇宙を自在に「産む」創智、創値の神宿る島の本義と本道の踏石を体現した。これは、3宮の3女が集い、海洋の民が、平和の励起に有効な「みあれ」祭りを玄界灘で催す本旨を明瞭にした。

陸の河川、湖沼に関しては、命育む水を司る信州の諏訪湖の諏訪大社が美観に加え、生活、生産の豊かさを全国に展開し、瑞穂の国の水神の風致、陸水の神技を刻んだ。日本中央の諏訪大社の申虎年の神渡の摂理顕現の御柱祭り、陸海の西南端の半島港湾貿易都市の長崎の総鎮守の諏訪神社のオクンチの祭りの

伝える陸海空の水文の自然の叡智と摂理、英知と倫理の文化の粋が清浄の国水、国土を育んだ。

## V-2 古代祭祀の宇宙と日本文明の相生

巨岩の岩上、岩陰、半露天、露天の約500年に亘る沖ノ島、宗像大社沖津宮の自然崇拜、原始・古代祭祀は陸上の依代・盤鞍と海底の寄物を宗像神社神宝館の学術調査、国宝認定審査、「神郡宗像への連載」を踏まえ、陸海の奉獻品、史跡、名勝とし、有意、有効な持続交歓機構の構造指標とした

この遭難による自然の奉獻品と古代国家祭祀による伝統的文化慣行、外交での奉獻品、大社催事の両輪は、玄海灘の孤島に収斂した海洋、陸上、空中の遥拝圏域を、世界遺産認定2004年「紀伊山地の霊場への参詣道」、東日本大震災が3月11日に起きた2011年「平泉－仏国土（浄土）を表す建築及び考古学的遺産群」、2013年「富士山-信仰の対象と芸術の源泉」として前世現世来世を貫く時空を超えた統合美観に留意して定められてきた。今昔の神苑、遊水池美観を上回る海浜海底の考古学的、芸術的に有効な陪都北部九州の美観は、この環境創智に触発され持続性を増した。この風景、風水土の下、時流に応じた海洋廃棄物を神前寄物とし、これが地球環境美化運動、教育を励起した。環境美化、教育と呼応した白砂青松の海浜、河川、湖沼を覆うバイオ、マイクロプラスチック等は、地球環境浄化、廃棄物処理運動、海洋文化深化の評価指標とされ、不言不出禁忌と禊で浄化浄心の循環、叡智・摂理を高揚し、地球、地域浄化の風土文化を培った。2017年世界遺産「神宿る島宗像沖ノ島と関連遺産群」登録は、この有意な相生の文化地域化と有効な文明相生の地球化体现を、理論・実践両面で近隣の北九州の環境浄化施設や福岡箱崎の九州大学浅海底フロンティアセンターを活かし、地球規模の日・亜の陪都構造の地域化、アジア・太平洋文明相生の清浄環境刷新機構に遥拝圏の仙境を育み、現代日本学統合の道を拓いた。

この理論的実証と実効的实践は、自然の叡智・摂理と英知と倫理の文化を通じ、科学的有意性を高め、許容できる権威的有効性を広めた。この源泉探究が皇学の創値と創智の伝統を守り、価値を高め、一体化し「時満ちて道ひらく平成の大造営」で令和の相生の文化を深め、海陸空清浄の相生の地球文明を神宿

る島に涵養し、この教学の創値の可逆的余裕の機構と創智深化の余地の水土の構造が皇学の柔軟な開化の体系と応変の実効体制を涵養し、時空を超え、神坐す現代日本の水土を培い、神宿る現代日本の有意、有効の水源を養い、仙境の文化深化、宇宙相生の文明開化の道を拓いた。

## 関連論文

- 葦津敬之 (2017) ; 宗像の歴史と未来 Branch No.430 2-6p
- 安藤真澄 (2021) ; 広告コミュニケーションの本質とは何か『広告社会学』の試み ミネルヴァ書房 427p
- 車相龍 (2011) ; 日韓の先端技術産業地域政策と地域イノベーション・システム—比較社会文化叢書 XXI 花書院 341p
- 藤原新也 (2017) ; 神坐す 沖ノ島 海の正倉院 小学館 119p
- J.ゴットマン、R.A. ハーパー編 宮川泰夫訳 (1993) ; メガロポリスを超えて 鹿島出版会 350p
- 正木晃 (2005) ; 宗像大社・古代祭祀の原風景 NHK ブックス 205p
- 丸山擁成 (2009) ; 邪馬台国 魏使が歩いた道 吉川弘文館 251p
- 丸山擁成 (2018) ; 日本交通史への道1—前近代日本の交通と社会 吉川弘文館 569p
- 高野信治 (2005) ; 民俗神や民族神との関係分析を通じた近世武家権力神の基礎的研究 205p 九州大学
- Y.Miyakawa (1980a,b) ; Evolution of Industrial System and Industrial Community I,II Science Report 30-1 21~64p, 31-1 49~81p
- Y.Miyakawa & M.Futagami (1993) ; Strategy report Japan's World Map Museum; Japan and Global Environment, Global Infrastructure, Metamorphosis of hosting environment : Systematera 3 55p-64p
- 宮川泰夫 (1997) ; 平和の海廊と地球の再生 I、II、III、297p、237p、220p
- 宮川泰夫 (2002) ; 地域の創成と文明の開化 皇學館出版 438p
- Y.Miyakawa (2007) ; Locus, Civilization et renaissance regionale Sur la mondialisation et localization 143-176p in La Geographie N spcil La Orbite De La Geographies De Jean Gotomann

- 宮川泰夫（2008）；国土の創成と国家の構造 — 辻本哲郎編 国土形成—流域圏と大都市圏の相克と調和 第7章 79-118p 技法堂出版
- 宮川泰夫（2011）；文明と経済の相生 皇學館大學出版部 213p
- 宮川泰夫（2012）；文化の深化と地域の革新 皇學館大學出版部 793p
- 宮川泰夫（2014）；神都の計画と聖地の構造 — 文化の深化と地域の革新— 皇學館大學『神宮と日本文化』 506-654p
- 宮川泰夫（2015）；現代日本学深耕—総合科学的日本学と実践的日本学の統合 日本学論叢 第5号 17-60p
- Y.Miyakawa（2017）；Regional Renaissance and Rejuvenated Civilization in Japan for Sustainable Development and Global Innovation; Focusing on the Industry-Academia-Government Collaboration' Context World Technopolis Review Vol6-1 2-35p
- 宮川泰夫（2021）；持続観光構造の地域化と観光持続機構の地球化—日本型総合指標システムの有意性と国際認証の有効性 日本学論叢 11 1-35p
- 松浦晃一郎（2008）；世界遺産 講談社 311p
- 毛利和雄（2011）；世界遺産と地域再生—問われるまちづくり 238p 新泉社
- 中村啓信監修（2015）；風土記上—常陸国・出雲国・播磨国 角川ソフィ文庫 507p
- 中村哲夫（2021）；東京、奠都記念東海道53次駅伝徒歩競争に関する研究 皇學館大學紀要第59 145-209p
- 小田富士雄編（1988）；古代を考える沖ノ島と古代祭祀 吉川弘文館 284p
- 小川琢治（1896）；台湾諸島誌 東京地学協会 396p
- 小野迪夫著・篠田康雄監修（1954）；神さま お宮 鎮守の森 中外日報社 p408
- 作田莊一（1961）；神の道；道の言葉 第3の巻 道の言葉刊行会 527p
- 佐藤信編（005）；世界遺産と歴史学 出版社 217p
- 須田寛（2019）；日本の観光 きのう・いま・あす 現場から見た観光論 262p
- 山下潤（2015）；スウェーデンの環境都市政策 古今書院 164p

## 参照資料・謝辞

- (2-1) 「宗像・沖ノ島と関連遺産群」世界遺産推進会議（2009）研究報告Ⅱ-2 113p  
世界遺産一覧表への記載推薦書（2016）「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群 110p

- (2-2) 世界遺産として「地域化の構造」、「地球化の機構」を踏まえ、実証の理論で実効ある実践の指針を示す上で、先人の宝を守る人々の想い「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群守り伝える指針、実践の実効を高める土地に刻まれた風景の励起、評価基準の強化に関しては、別論で深化し、実践し、実効的戦略を高めています。
- (2-3) 本論は、日本学論叢11号（1～35p）で述べた如く、科学研究費「持続可能な観光と国際認証の有効性に関する多面的分析（2018.4～2021.3）研究代表者二神真美を用いた。広島出身で、松浦ユネスコ事務局長の友人、故大島元国連大使の助言と合せ、謝意を表したい。なかでも神坐神都の元鷹司尚武大宮司、神宿る神都宗像の葦津宮司はじめ現地の構造、体制、機構、大系の課題を体現し理論的実証、実効的実践の関連を明確にいただいた方々に深謝し、献呈いたします。